

春のお彼岸特集

仏教界に風穴



曹洞宗見性院(熊谷市)
橋本 英樹 住職

檀家制度廃止し、自由・自営・自立した寺院を

400年以上続く伝統宗派の寺院でありながら2012年6月、それまで仏教界では当たり前とされてきた「檀家制度」を廃止。全国に激震が走った。「余計なことをするな」と。それは自ら安定した収入源を断ち切ることを意味する。「お寺はこれまで檀家に頼りすぎて、その上にあぐらをかいてきた。何も努力してこな

かつた寺は今後かなりの数が淘汰されるだろう」と危機感を募らせる。同寺では、檀家に対する半ば強制的な寄付金や年会費などは一切もらわず、住職の教えに賛同する「信徒」に任意で法事や塔婆供養をしてもらう。さらに一定条件はあるものの、宗教や宗派、国籍を問わず境内の墓地が購入できる

よう規則を改めた。

「核家族化の進行でもはや日本古来の家族制度は崩壊。先祖代々の墓を守ることに疑問を持ち始めた若い世代も多い」と橋本住職。そもそも檀家制度に拘束力はなく、入ることも辞めることも自由。ただ親から受け継いだから何となくといったケースが多いのだ。

橋本住職は「3つの自(自由・自営・自立)」をキーワードに掲げる。檀家制度をなくし広く門戸を開放(信教の自由)。お互いに比較的自由な関係性を保つことで住職の発言力を確保(自立)し、布教しやすい環境を守る。そのため檀家に頼らない積極経営(自営)が不可欠で、3年前から本堂で僧侶主導の葬儀を始めた訳はそこにある。

「経済的に自立し、信徒に金銭的な負担をかけ過ぎないためにも葬儀や墓地などの仏事、供養にかかわる一連業務は自前で行っている」という。依頼があれば納棺から遺体搬送、仕出し料理や返礼品の手配まですべてをこなす。

慣習にとらわれず、一見異

仏教で説く悟りに至るための6つの徳目「六波羅蜜」とは

- ①布施(ふせ) ……財や心を他人に施すこと
- ②持戒(じかい) ……戒を守り、他人に迷惑をかけないこと
- ③忍辱(にんにく) ……不平不満を言わない。腹をたてない
- ④精進(しょうじん) ……常に努力を惜しまない。全力でことに当たる
- ⑤禪定(ぜんじょう) ……心を静かに保つ。反省を忘れない
- ⑥智慧(ちえ) ……真実を見る智慧。正しい判断力

端と思われがちな行動もすべては仏教の教えを一人でも多くの人に伝えたいから。来月から宗派を超えた若手僧侶の会「善友会」を発足。全国から69人が集まった。「同世代には現状を変えなければ」と、同じ感覚の輪が広まっている。混迷の時代だからこそ一筋の光明を放つべく、何事も勇気を持って行動したい。万吉(まげち)寺の所在地)から世界を変えます」。47歳。